

MIRAI REPORT

ISSUE. 010

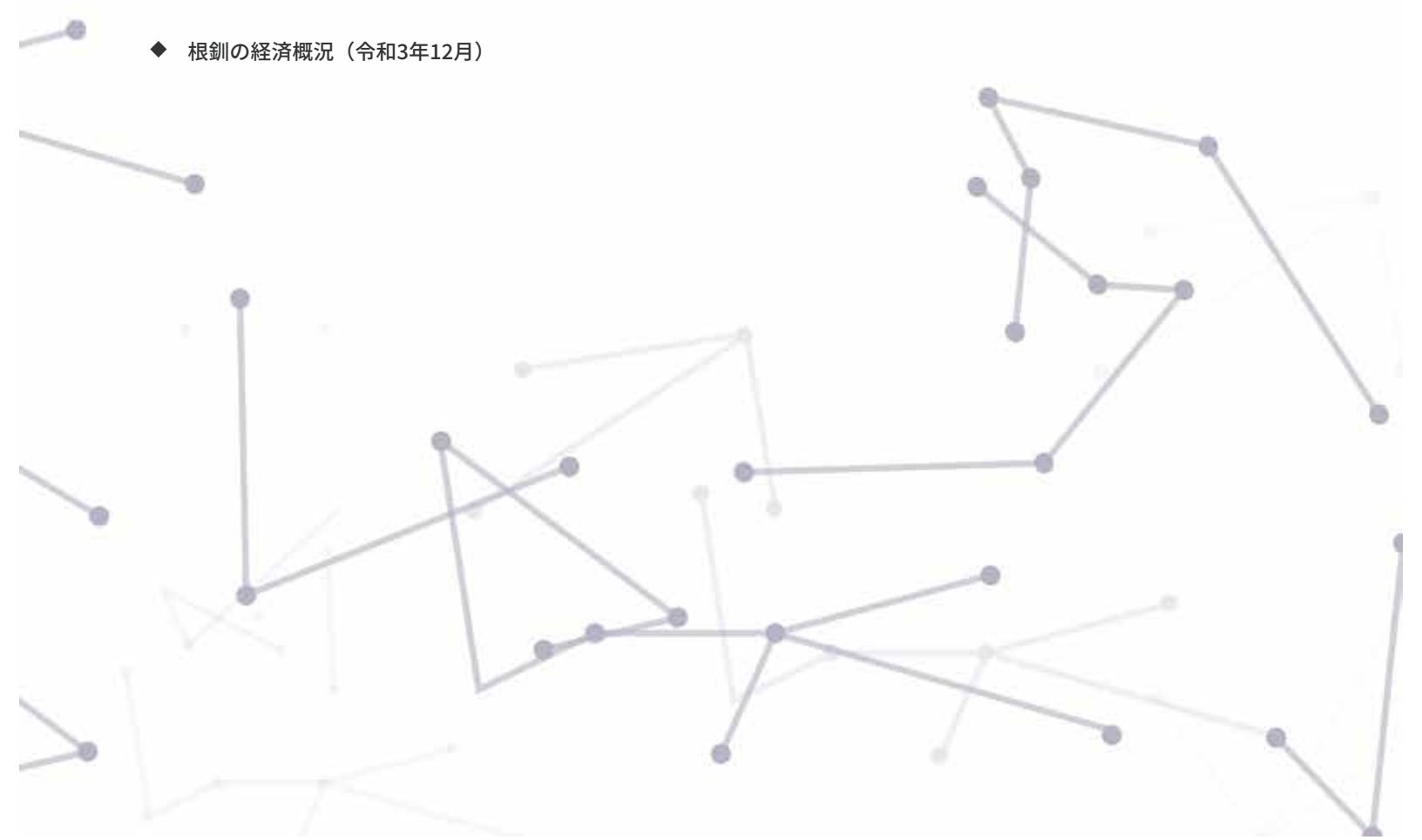
◆ NoMaps釧路・根室2021 Vol.2

i. カンファレンス4「釧路地域と北大の連携による新たなプロジェクトの創出」

ii. カンファレンス5「道東地域のワーケーションは可能性がいっぱい！～滞在が仕事と生活にもたらす好循環～」

iii. カンファレンス6「釧根地域はアドベンチャー・トラベルの聖地となる？」

◆ 根釧の経済概況（令和3年12月）



NoMaps 釧路・根室 2021 Vol.2

2021年11月9日・10日、今年度で第3回目となるNoMaps釧路・根室2021を開催いたしました。前号では1~6のカンファレンスのうち、1~3のカンファレンスについて概要をご紹介しました(MIRAI REPORT 009を参照)。本号では、4~6のカンファレンスの内容について、要旨を抜粋してご紹介いたします。

NoMaps 釧路・根室 2021
11/10 WED 10:10-11:10
オンライン配信

カンファレンス 04

**釧路地域と北大の
連携による新たな
プロジェクトの創出**

モデレーター
北海道大学ロバスト農林水産工学
国際連携研究教育拠点 代表 教授
石井 一英

パネラー
釧路市長
蝦名 大也

釧路商工会議所 釧路地域水産エネルギー研究会長
株式会社三ツ輪商会 専務取締役
志賀 功

かつて全盛期の釧路を支えた三大産業「石炭・紙パルプ・水産」が今日低迷する中、改めて地域資源を見直し、北海道大学との連携により、当地域における新たなプロジェクトの創出が始まっています。

当カンファレンスでは、モデレーターに北海道大学ロバスト農林水産工学国際連携研究教育拠点 代表 教授の石井一英氏を迎え、新たな発想による地域エネルギーの循環・活用、カーボンニュートラルな食料生産の可能性について、2名の方々に探っていただきました。

パネラー **蝦名 大也** 氏

1959年 釧路市に生まれる
1993年 釧路市議会議員
1999年 北海道議会議員
2008年 釧路市長 現在四期目の市政を務める

産業というのは変遷していくもので、釧路市の三大産業「石炭・紙パルプ・水産」も、時代や環境の変化に伴い厳しい状況に置かれています。こうした産業に関わる「技術」の部分をもどのように転換していくかが、この先考えていかなければならない課題です。

私が市長に就任した当時は、人口減少社会へいかに対応していくかという「緊縮型」の財政運営がトレンドでした。その中で、地方財政についても様々な課題が取り

沙汰されていましたが、釧路市として、市民の日々の生活がマイナス面にどんどん向かっていくのは受け入れ難いことでした。そこで、トレンドに逆行し「プラス」に成長する都市を目指すために打ち出されたのが「都市経営」というワードです。この街に存在する産品、気候風土、人といったすべてのものを財産、すなわち経営資源と見なして、何をどのように活用するか考えながら、まちづくりに取り組んできました。

私は、市政を運営する上での自身のマインドをよく「10戦7敗が良い」と表現しています。行政は“一戦必勝”が何となく義務付けられているイメージですが、勝ちにこだわると、そもそも出来ることしかやらなくなってしまいます。そこで、あえて10戦7敗のつもりで、取り組みたいと思ったことには果敢にチャレンジ

していこうというマインドを持つようにしています。

ただ、チャレンジしたいと思っても、釧路市のパワーだけでは限度があります。国や道と、一つの方針に向かってベクトルを合わせて取り組むことで、出来なかったことが出来るようになるのです。平成23年に釧路港が「国際バルク戦略港湾」に選定されたことや、平成28年に釧路市が観光庁事業の「観光立国ショーケース」に選定されたことも、そうした成果の一つです。

当カンファレンスのテーマである北大との連携プロジェクトのように、外部からも新たな観点や施策を取り入れつつ、引き続き市政運営を進めていきたいと思っています。

モデレーター **石井一英** 氏

1993年 北海道大学工学部衛星工学科卒業

1995年 同大学大学院工学研究科衛星工学専攻修了

1997年 同大学院同専攻博士後期課程退学後、北海道大学大学院工学研究科助手

2010年 北海道大学大学院工学研究院准教授

2018年 同教授

2020年 北海道大学ロバスト農林水産工学国際連携研究教育拠点代表、NPO バイオマス北海道理事長

主な研究分野～廃棄物管理全般、バイオマス活用システム構築、再生可能エネルギーによる地域振興など

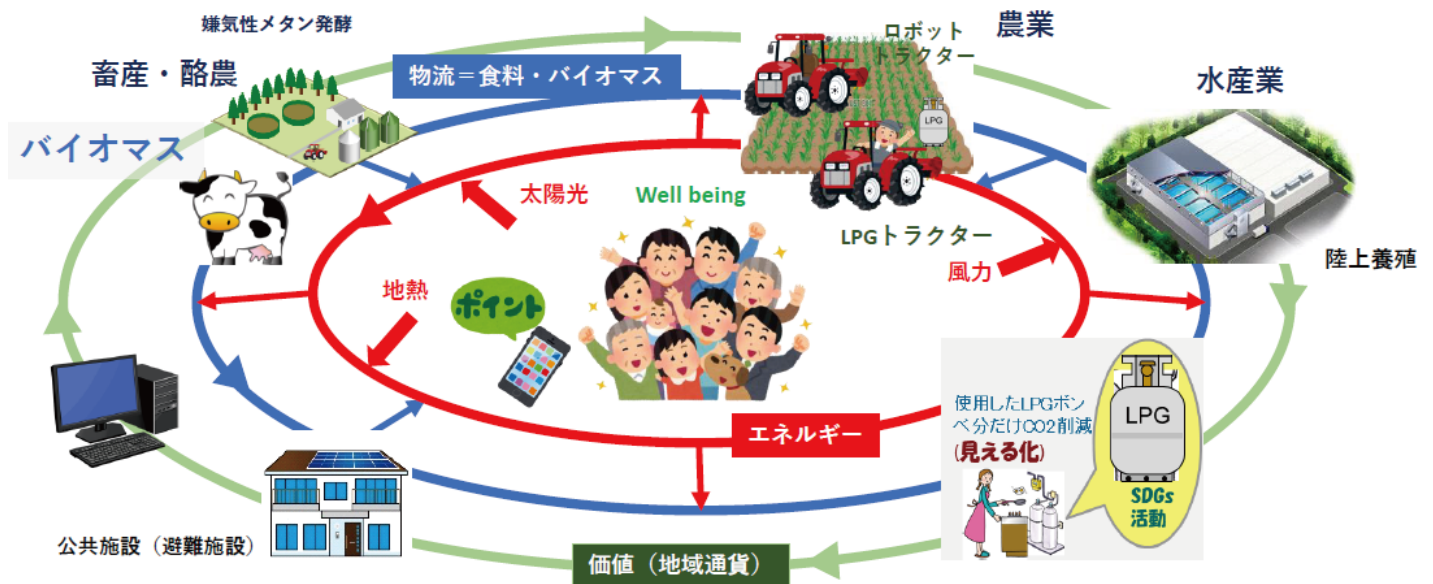
私の研究室は「循環共生システム研究室」という名称です。この研究室のコンセプトは、常に50~100年後の人々の生活を考えよう、というものです。私の恩師の言葉に「もの言わぬ弱者と共生しなければならない」というものがあります。もの言わぬ弱者とは、自然環境や、発展途上国の人々、次世代の人々等を指します。私たちは、ただ先に生まれたという理由だけで好き勝手に資源を消費していますが、そうではなく、将来の人々の生活を考慮し、50年先を見据えた廃棄物・バイオマスとエネルギーの循環型システムのあり方を考える必要があるのです。

今回ご紹介する連携プロジェクトの研究主体である「ロバスト農林水産工学国際連携研究教育拠点」のミッションは、“ロバストネスな社会を築く”というものです。ロバスト性とは、環境や気候の変化など外乱の影響による変化を防ぐ内的な強靭性を意味します。今ある機能を出来るだけ損なわず、外部の影響による変化を最小限に抑えることのできる地域を作ろう、という意味でロバストという言葉を用いています。

当プロジェクトは、国立研究開発法人科学技術振興機

構（JST）が運営する「共創の場形成支援プログラム」に採択されたもので、「地域エネルギーによるカーボンニュートラルな食料生産コミュニティの形成」をビジョンとして掲げています。人口増加や気候変動といった世界的な社会問題が顕在化するなか、近年はカーボンニュートラルや新型コロナウイルス感染症といった制約も発生しています。当プロジェクトでは、2050年のカーボンニュートラルに向けて、そうした制約を克服しながら、地域資源を最大限に利用しつつ「エネルギーと食料」の面から地域経済の自立を目指します。

具体的には、地域資源をエネルギーに変換し地域内で利用することで、物流・エネルギー・価値の循環を「見える化」します。例えば釧路市なら、地場産業の畜産・酪農業で発生するバイオマスをエネルギーに変換して農業や水産業といった他業種や一般家庭に還元します。ただ、そうしたシステムの構築だけでは、たとえ環境に優しくとも「住みたい！」と思える楽しさやワクワク感に欠けます。そこで、さらに上位の、市民が地域価値をより実感できるコミュニティの形成を、釧路市と協力して目指していきます。



↑ビジョン実現によるコミュニティの姿

パネラー **志賀 功** 氏

1989年 株式会社三ツ輪商会へ入社後、長く産業機械分野の提案営業に従事

2011年 同社グループの養豚事業会社を起ち上げ

2018年 畜産飼料製販会社、翌年に肥料及び酪農資材の輸入商社のM&Aを推進、両者をグループ化

2021年 (株)三ツ輪商会内でアウトドア事業及び食品小売事業の立ち上げに部門責任者として関わる

現職 株式会社三ツ輪商会 専務取締役 事業本部統括 兼 企画事業本部長、トントス浜中株式会社 取締役業務部長、株式会社第一飼料 常務取締役、株式会社コスモ 専務取締役

私は、釧路商工会議所の8部会のうち「商事部会」の会長を務めるほか「釧路地域水素エネルギー研究会」の会長も兼任しています。当研究会は、15年ほど前に商事部会、工鉱業部会、運輸交通部会の3つの部会が中心となって前身を起ち上げたものです。日本は世界第5位のエネルギー消費大国でありながら、エネルギー自給率がたったの数%に過ぎません。また、釧路地域には太陽光、地熱、バイオマスといった豊富な再生可能エネルギー源が存在しています。それらを活かして水素を作ってはどうかといった発想が、当研究会起ち上げのきっかけでした。水素には、作る・貯める・運ぶ・使うの4つのシーンがあります。再生可能なエネルギーから水素を作り、釧路港を活用して貯める・運ぶ。これを事業化できるのではないかと考えたのです。起ち上げ以来、数々の有識者・関係機関を集めて勉強会等実施してきましたが、そろそろ何か形になる成果を残したいと考えていた矢先、

新型コロナウイルス感染症の拡大によって活動がしばらく停滞期に入ってしまいました。そのような状況下で、北大から釧路商工会議所に当プロジェクトへ協力してほしいというお話を頂いたので、頓挫していた活動に一筋の光が見えたような気がし、二つ返事で引き受けました。私自身、地元民としてワクワクしておりますし、地元企業が既に持っている経験や技術を当プロジェクトで最大限に活用していただくことで、新たな産業に結びついていくことを期待しています。

本稿は発言の要旨を一部まとめたものです。
全編は公式YouTubeにて公開中のアーカイブ映像をご覧ください。
(右QRコードよりアクセス可能)



NoMaps 釧路・根室 2021

11/10 WED 11:30-12:30
オンライン配信

カンファレンス 05

道東地域の ワーケーションは 可能性がいっぱい!

～滞在が仕事と生活に
もたらす好循環～

モデレーター

クリプトン・フューチャー・メディア株式会社
ローカルチームマネージャー

服部 亮太

パネラー

株式会社KabuK Style Co-CEO
HafH 代表

大瀬 良亮

株式会社ジョイソー
取締役COO

四宮 琴絵



『働きながら休暇をとる』という過ごし方として注目されている『ワーケーション』。新型コロナウイルスの影響により、都会から自然豊かな地域へ移動してのワーケーションという事例も見受けられる中、日本屈指の自然の豊かさを誇る道東地域は、まさにワーケーションにうってつけの場所とも言えるはずです。

当カンファレンスでは、クリプトン・フューチャー・メディア(株)の服部 亮太 氏にモデレーターを務めていただき、道東地域のワーケーションの可能性について探ります。

パネラー 大瀬 良亮 氏

1983年 長崎市生まれ

2007年 筑波大学を卒業後、電通入社

2015年 官邸初のソーシャルメディアスタッフとして従事

2019年 4月 定額制宿泊サービス「HafH(ハフ)」のサービスを開始

同年 9月 電通退社

2018年 4月～2021年 3月 つくば市まちづくりアドバイザー

2021年 4月 (一社) 日本ワーケーション協会顧問。東京に住みながら地元の地方創生活動に従事

2010年、原爆の実相を伝える「Nagasaki Archive」発起人として Yahoo! Japan インターネットクリエイティブド 特別賞受賞他

2011年～在京長崎県人会「しんかめ」を主宰など

私が定額制宿泊サービス「HafH」を創業したのは、前職で3年間内閣広報室に出向していた経験がきっかけです。毎月のように海外へ出張し、朝ロンドンに着いたと思ったら昼にはベルリンに移動し、夜にはパリにいる...そのように旅をしながら仕事をする日々を過ごす中で、自然と場所に関係なく仕事ができるカラダになっていきまし

た。それと同時に、日本の将来を考えた時、世界に視点を向けることで、もっと多くのチャンスを掴めるのではないかと感じていました。地方にいと、つい何かと東京にばかり目を向けてしまっていますが、そうではなく、世界中でリモートワークが可能になった今の時代こそ、世界と地方をつなぐきっかけを作りたいという想いで「HafH」を起ち上げました。

「HafH」のサービス内容は、一言でいうと「旅のサブスク」です。5つの定額プランを選び、サービスの中で獲得できるコインを消費して宿泊と移動をセットで利用することができます。東南アジアを中心に世界36か国1000拠点の宿と提携しているほか、北海道は東京、沖縄に次いで多い40件のホテルを掲載しています。うち釧路市内の掲載数は6件で、札幌の8件に次いで多くなっています(2021.11時点)。

では、私たちがなぜワーケーションをするのか?というお話をします。つい先日「大自然に触れて過去・未来とつながる釧路・阿寒摩周サステイナブルツーリズム

ム」という 5 日間のツアーを開催しました。テーマは「#つながる余白をつくる旅」。ワーケーションをすること自体はあえてスケジュールに組み入れず、参加者は各自空いた時間で仕事をしていました。団体ツアーのようにスケジュールで縛ることなく、人や自然とつながる「余白」の時間を作ることで、参加者はそれぞれ「余白」でアイヌ講話を聴きに行ったり、自然と触れ合ったりして道東の素晴らしさを感じる存分体感していたようでした。

これまでのワーケーションに足りなかったのは、Wi-Fi 環境でも電源でもなく、自分らしい豊かな生き方をするための「余白」でした。一人でただ仕事をするだけなら、この釧路という土地に拘らなくて良いかもしれません。しかし、釧路に来ると、自分らしく生きるための、人や自然と繋がる「余白」があるのです。いつもの住まいじゃない場所で、いつも会わない人と話すことで、新たな生き方の発見があったり、何かしらのヒントを得ることができます。

ワーケーションとは、自分らしい豊かな生き方ができる場所探し、いわばロケハンのようなものです。自分が一番輝ける地を見つけることが、ワーケーションの一番の意義だと思います。

最後に、今後の釧路観光のあり方について触れたいと思います。これまでの釧路の観光は、週末の 1 泊 2 日で手っ取り早く、対価をもらって地域の良いところだけを体験してもらった「歓迎」スタイルでした。しかし、これからは、パソコン持参で平日に来て、日中は仕事をする旅行者が増えてくるでしょう。そうなる滞在期間も長くなるので、旅行者にとっては、お金をかけて地域の良いところをするよりも、ゆったりとそこで暮らすような観光を求めるようになります。そこで、旅行者が地域の暮らしに溶け込むことをいかに受け入れるかという「寛容」スタイルにシフトしていくことが、これからの釧路観光を考えるうえで重要になってくると思います。

パネラー 四宮 琴絵 氏

1976 年 北海道生まれ

高校卒業後、地元企業に入社。カラオケの全道大会で芸能事務所に声をかけられ上京。2 年間の芸能生活を送る

2000 年 都内の IT 企業に勤務し、営業事務を経て SE になる

2005 年 夫となる四宮 靖隆氏と結婚。三人の子どもの母となる

2014 年 ジョイゾーへ SE として復帰

2019 年 取締役 COO

生まれ故郷の釧路に貢献したいという思いから副業として合同会社 Hokkaido Design Code の起ち上げやラポールくしろの理事に就任するなど精力的に活動

私が取締役 COO を務める株式会社ジョイゾーは、東京にオフィスを持ち、主にシステム開発やクラウド向けビジネスサービスの提供を行っています。今回は、当社で取り入れている“ジョイゾー流ワーケーション”についてご紹介します。

今年(2021年)から、釧路にて合宿スタイルの「集中ワーケーション」を実施しています。1 月には 経営者だけを集めた経営合宿を実施し、ホテルのワーケーションルームを借りた集中ミーティングや、夕食後のリラックスしながらのディスカッションタイムで社員同士の交流を深めました。また、雪の中の早朝ウォーキングでは福岡出身のメンバーがマイナス 3°C の世界を初めて体感し、衝撃を受けていました。ただ雪の中を歩くだけでも、普段とは違う刺激があり、メンバーは皆非常に楽しんでいたようでした。

夏に行った釧路でのマネージャー合宿では、ワーケーションスポットとして当社で一室借り上げている釧路の apart でミーティングをし、日中は温根内の木道散策、夜は市内に戻って懇親会をしました。マネージャー同士の信頼関係が無いと組織として成り立たないので、ワーケーションという形で集まって交流するのは良い取り組みだと実感しました。

今は、社員ワーケーションをまさに実施しているところです。早朝にボッケの森を散策し、アイヌ講話を聴いて他人を受け入れることや対話について考えることで、普段触れる機会のない文化を体験できただけでなく、会社の中での人間関係の築き方について自然と話し合う時間も生まれました。

また、先日小学生の息子を連れて「子連れワーケーション」を体験してきたので、併せてご紹介します。コロナ禍で小学校の授業が Web 授業になったので、それなら釧路出張へ連れて行ってしまおうと思ったのがきっかけです。日中は学校から貸与されている PC で授業を受け、夜は阿寒へ移動してカムイルミナを見ながらボッケの森

を散歩しました。子供にとっては夜の森を歩くなんて、なかなか出来ない経験です。翌日は、また阿寒湖に行ってマリモの生態について学び、昼のボッケの森を歩いて夜との違いを体感しました。学校の授業では学べないような経験を子供にさせてあげられるので、子連れワーケーションはこれからもっと広まっていくと思います。

最後に、私が考えるワーケーションの意義を3点にまとめます。

1つ目は、思考のストレッチになる、ということです。自然と触れたり、歴史を学ぶことで、自分の中の「日常・常識」と切り離され、様々な角度から思考の整理ができます。

2つ目は、信頼関係を築けることです。ただ時間を積み重ねるだけではない、体験を通じた共感と非日常の中で解放された意見交換が可能となり、信頼関係の結び方を学ぶことができます。

3つ目が、人と自然の魅力に触れられるということです。その土地で人と触れ合い、自然が素敵な場所で幸福度が増す経験を、地元の人と一緒に分かち合うことで、その土地と関係性を持ち続けたい、という気持ちが起きます。

ワーケーションとは、ただ観光に来るのでもなければ、仕事ができる場所を探すわけでもありません。その土地にいる人と触れ、自分の置かれている環境だけが全てではないということを学ぶ、それがワーケーションの姿です。人との関係が、持続可能なワーケーションの好循環が生まれるきっかけにつながると考えます。その時に、この道東という場所を選んでもらえるような価値を生み出していくことが、これから重要になっていくと思います。

モデレーター 服部 亮太 氏

1979年 江別市生まれ

大学卒業後、北海道のスーパー、東京のレコード会社に勤務
2009年「札幌の今を伝える」をミッションに「Sapporo6h」
を起ち上げ、まちの情報をリアルタイムで紹介する
SNSやインターネット生中継で人気を博す

2014年 クリプトン・フューチャー・メディア株式会社入社

2016年 北海道の案件を担うローカルチーム発足

以来チームマネージャーとして、北海道のニュース&イベント
アプリ「Domingo(ドミンゴ)」の運営や、ビジネスコンベンション
「NoMaps(ノーマップス)」事務局としての企画・運営など幅広く手掛ける

私からは、現在鶴居村が積極的に取り組んでいる子連れワーケーションについてご紹介します。

鶴居村は、その景観の美しさから、ワーケーションスポットとして注目を浴びていました。その一環で、四宮さんのお話にもあった「子連れワーケーション」を鶴居村で推進するべく、当社も参画して現在実証実験を行っているところです。村内にワーケーション施設は何箇所かありますが、子連れとなると、子供が果たして楽しめるのか、子供と一緒にいる時間はどこで過ごしたら良いのか、ということが問題になってくるので、一人のワーケーションの時とは行動が異なってくることがモニタリングを通して分かりました。

鶴居村はもともと「農泊」宣言のもと「暮らすような旅」を一貫して掲げており、そのコンセプトがワーケーションと相性が良いのではないかとということで、実証実験事業が始まったという経緯があります。実際の子連れワーケーションのモニタリングでは、村内の牧場に協力してもらって子牛への授乳体験をしながら地元の子どもと交流したり、釣り堀体験やチーズ作りをしました。このように充実したプログラムが組めるのも、「農泊」を推進していた鶴居村ならではの利点ですので、鶴居村のワーケーションはまだまだ可能性を秘めていると思います。

本稿は発言の要旨を一部まとめたものです。
全編は公式YouTubeにて公開中のアーカイブ
映像をご覧ください。
(右QRコードよりアクセス可能)



NoMaps 釧路・根室 2021

11/10 WED 13:00-14:00
オンライン配信

カンファレンス 06

釧路地域は アドベンチャー・トラベルの 聖地となる？

モデレーター

株式会社北海道宝島旅行社
代表取締役

鈴木 宏一郎

パネラー

国土交通省北海道運輸局
観光部 部長

水口 猛

ウィルダネスロッジ・
ヒッコリーウインド 代表

安藤 誠

株式会社厚岸味覚ターミナル・
コンキリエ 取締役支配人

加藤 裕之



アフターコロナ、アドベンチャー・トラベル・ワールドサミット(ATWS)2023北海道を見据えて、釧路・根室地域がアドベンチャー・トラベル(AT)の聖地に成りうるための必要条件を検討します。

当カンファレンスでは、バーチャル開催された ATWS 北海道を振り返り、改めてインバウンドを呼び込むにあたっての課題を整理し、強みをブランドにつなげるため、今地域は何をするべきかをディスカッションしていただきました。

パネラー 安藤 誠 氏

北海道知事認定マスターガイド
国土交通省・経済産業省・農林水産省認定地域資源活用事業認定事業者
一般財団法人実践自然保護団体日本熊森教会 顧問
1999年 ウィルダネスロッジ・ヒッコリーウインド 開業
2004年 アラスカにてガイド開始
2006年「安藤誠の世界」と題して全国で講演活動を開始
2014, 2016, 2018, 2019, 2020年 世界的写真コンテスト『Nature's Best Photographer of the Year』入賞・部門グランプリ受賞
2020年 ロンドン自然史博物館・イギリス公共放送局 BBC 主催の世界最高峰の野生生物写真コンテスト『Wildlife photographer of the Year』哺乳類部門受賞。
56年という歴史ある写真コンテストに日本人として3人目となる歴史的快挙

このカンファレンスのテーマは「釧路地域はアドベンチャー・トラベルの聖地となる？」ですが、これに関しては即答で、既に聖地となっている、と答えて良いでしょう。私は少なくとも 20 年以上前からこの地域でアドベンチャー・トラベル(以下 AT)に関わる仕事を

していますし、あとは皆さんがそこに参加していくかどうかです。

私は、AT におけるインバウンドを「真の豊かさを求める人たち」と表現します。真の豊かさを求める人が、心の底から感動し人生が変わっていくような旅のことを、AT とこの場で定義したいと思います。

パネラー 加藤 裕之 氏

1994年 株式会社厚岸味覚ターミナルに入社
1997年 生鮮部長
2004年 同社支配人
2007年 取締役支配人
ツアー観光客の誘致などに尽力し、厚岸味覚ターミナル・コンキリエは「北海道じゃらん」の道の駅ランキング 2021「レストランの食事メニュー」部門で 11 年連続 1 位の快挙を達成

私は厚岸生まれの厚岸育ちです。現在当社では別寒辺牛湿原でアクティビティ事業を推進していますが、私はその湿原で育ち、カヌーやフィッシング、キャンプや BBQ をするのが当たり前前の生活を送っていました。しかし「当たり前だと思っていた環境は、当たり

前ではない」ということに、観光事業を通して気づかされました。我々のアクティビティ事業のキャッチコピーは「くうのむあそぶ。」で、コピーライター・糸井重里さんの有名なキャッチコピーである「くうねるあそぶ。」をもじっています。

道の駅「厚岸グルメパーク」は、1994年(平成6年)に開設して以来、食＝地元特産品を柱に運営展開をし、北海道じゃらの道の駅ランキングや道の駅スタンプラリー完走者が選ぶ北海道「道の駅」ランキングでトップにランクインするなど、人気をいただいています。

地域の自然環境に関しては、R3年3月に厚岸霧多布昆布森国立公園が指定されました。道東エリアには3つの国立公園・3つの国定公園・7つのラムサール登録湿地がありますが、これまではいずれも「保全」にばかり重点が置かれていました。今後はツーリズム展開により上手く活用し、“本物”の魅力を日本中・世界に発信していきたいと思っています。

現在取り組んでいる具体的な事業展開の一例を紹介すると、持続可能な観光への取り組みの一環として「厚岸湖の潮干狩りツアー」をJAFと共同で実施しています。春一番の時化(シケ)後、厚岸の海岸には海洋資源ゴミが漂着するので、軽トラック2台分にもなるそのゴミを参加者みんなで回収してから潮干狩りをし、お昼ごはんを食べて、あさりの味噌汁を飲んで解散する、という内容なのですが、参加申込の倍率が非常に高くなっています。

来年度も引き続き、「持続可能な観光」とは何かをテーマとして事業展開を進めていきたいと思っています。

パネラー 水口 猛 氏

1982年 運輸省北海海運局に入局
1989年 小樽商科大学短期大学部修了
2004年 北海道観光局へ出向
2006年 北海道運輸局観光部国際観光課
現在まで継続して観光行政に携わっている

我々が取り組んでいるアドベンチャー・トラベル・ワールドサミット(以下ATWS)は、Adventure Travel Trade Association(ATTA)が年に1度開催する世界大会で、今年で17回目です。これまでアジア・オセアニア地域での開催は無く、北海道が初となります。本来であれば、約800人の参加者が北海道に滞在し、アドベンチャーツアーを体験するはずでしたが、残念ながらコロナ禍でバーチャルの開催となってしまいました。しかし、再招致により2023年の北海道開催が決定し、約2年の準備期間の中で、北海道の素晴らしさを世界へ発信するべく取り組みを進めています。

もともと北海道には、多くのインバウンドが訪れていました。花を見たり、美味しいものを食べたり、温泉に入ったりと、様々に楽しんでいましたが、果たして北海道が持っている価値はそこだけなのだろうか、本当はもっと素晴らしい一面があるのではないかと常々思っていました。そんな矢先、アドベンチャー・トラベルの存在を知り、2016年、アラスカで開催されたATWSに道内のメンバー数人を連れて行きました。そこで、どんな人が集まって、どんな旅行を目指しているのかを目の当たりにし、非常に感銘を受けて帰ってきたのを覚えています。是非ともこの取り組みに関わりたく強く思い、今日まで携わってきて、ようやく北海道への招致決定にたどり着いたというわけです。

この道東地域が持つ魅力は、外国の方もよく言いますが、世界中どこを探しても無いものです。景色の素晴らしさや、動植物の多様性などは、スイスやニュージーランドより高く評価されています。また、北海道は、アクセスの良さについてもよく触れられていて、一級の自然や動植物にこんなにもアクセスが良い場所は世界中を探してもそう他にない、と言われます。あとは、食のバラエティの豊富さです。どんな層にも、どんな好みにも対応できる、これもこの北海道ならではの素晴らしさです。

北海道は、世界中と比べてみても、とりわけ素晴らしい価値を持っています。それなのに、我々は今までその魅力を十分活かし切れていなかったのではないかと、という思いが、私アドベンチャー・トラベルへ取り組む意欲の元になっています。

地域の人との連携で付加価値を生み出す

モデレーター **鈴木 宏一郎** 氏

1965年 北九州市に生まれ、西宮で育つ。東北大学法学部卒業後、小樽商科大学大学院修了。株式会社リクルートに17年間勤務後、北海道に1ターン

2007年4月 株式会社北海道宝島旅行社 (<https://hokkaido-takarajima.com>) 設立
国内・外の富裕層 FIT を対象としたオーダーメイドツアーサービス、観光地域づくりコンサルティング、WEBサイト「北海道体験」による体験事業者への販促支援等に取り組む

2018年6月 第2回日本サービス大賞「優秀賞」受賞
同年12月「地域未来牽引企業」に選定

鈴木 氏：安藤さんがこれまでやってきた、お客様から地域にお金を落としていただけるガイドの仕組みや、加藤さんの、ただアサリやカキを売るだけではなくツアーという形を通して付加価値を生み出していく、といった取り組みを見ていると、水口さんがいつもおっしゃっているように、地域の人がコーディネートをする仕組みをしっかりと作っていかないと、この先ATがかけ声だけで終わってしまうのではないかと、という懸念があります。水口さんはどうお考えですか。

水口 氏：100人乗せて100万円の売上、つまり1人当たり1万円のクルーズツアーがあったとしたら、ATの世界では同じ100万円の売上でもたった4人のお客様で済む、という例え話があります。なぜこれだけ違いが出るのかというと、ATでは地域の人同士が繋がって、旅行に付加価値をつけた上でお客様に提供しているからです。ホテルや旅行会社は、アクティビティの商品を単品数千円で売るのではなく、地域の文化や歴史をきちんと説明できるガイドと繋がりを持ち、ガイディング込みで販売すれば、それだけで単品よりはるかに高価な商品として販売することができます。ですから、地域人材との連携は非常に大切で、そのためには地域の人々のまとめ役が必要だと思っています。

「本物」を伝える「インタープリター」としての役割

鈴木 氏：当社は海外のお客様がメインなので、コロナ禍で飛行機が飛ばないと、その分売上が無くなります。ですから、経営的には非常にダメージを受けているのですが、安藤さんは以前「コロナによる影響の99%は良いことだ」とおっしゃっていました。ATにおいてコロナをチャンスに変えるためには、どのようなことがキーワードになりますか。

安藤 氏：キーワードは「本物」です。「本物」を定義するとき、私が良く引き合いに出すのが「信頼」そして「継続」というワードです。「継続」されていないと「信頼」は存在せず、「信頼」が存在しないところに「本物」は存在しません。例えば、ハシボソミズナギドリという鳥は、タスマニアから32,000 km という長距離を移動する渡り鳥ですが、この長旅のドラマを何万年も前から一貫して繰り返しています。自然というのは継続的で、約束を破りません。そうした要素から、ビジネスへと繋げていけるのではないかと思います。

また、ガイドというと皆さんは、鳥や花の名前に詳しくて、登山の時に先を歩いてペース配分や安全管理をしてくれる人のことだと思っているかもしれませんが、そうではありません。ガイドとはもともと「インタープリター」、すなわち自然と人、人と食、あるいは人と人の“接着剤”のような役割を担う人のことです。インタープリテーションの意味を理解して実践しているガイド、もっと言うと、インタープリテーションを継続しているガイドこそ、真のプロフェッショナルなガイドだと思っています。

地域を巻き込んで取り組む

鈴木 氏：コンキリエさんでは、厚岸蒸留所(堅展実業株式会社)に道の駅のスタッフをガイド役として置くなど、地域との連携に非常に長けていると感じますが、関係を築く上での苦労やコツなどをお聞かせください。

加藤 氏：「一人勝ち」をしてしまうと、地域から反感を買ってしまいますので、あくまでも地元の皆さんを巻き込み、全員で地域を盛り上げていくのが、我々のやり方です。例えば、カヌーツーリングでは、森・川・海の繋がりを学んでから、漁師さんを訪問してカキの話を聞き、さらに種苗センターでも解説を聞いて、オイスターロードを歩いてから最後にカキを食べる。すると、何倍にも美味しく感じるのです。こうしたツアーへの取り組みを今後も継続してやっていきたいと思っています。

また、厚岸蒸留所のツアーに関しては、堅展実業株式会社さんから、是非地元企業の人にガイドを依頼したいと直接ご指名いただき、当道の駅からスタッフを派遣しています。ただこの厚岸に来てウイスキーを飲むのではなく、原材料の大麦の畑を見に行き、その麦を香りづけるピート(泥炭)の採掘場に行き、原酒樽の材料となるミズナラの森を見に行き、原料の水を汲み出す水源地を訪れる…。そのストーリーを味わってから、ミズナラの木の上でウイスキーを飲めば、とてつもなく贅沢なツアーになります。こうしたツアーの

発想力を持つ人の存在は必要だと思いますので、今後は、コーディネーターはもちろん、既存のモノ同士を組み合わせる新たな発想ができる人材の育成を強化していきたいです。

アドベンチャー・トラベルの更なる推進に向けて

鈴木氏：カンファレンスの視聴者に向けて、一言ずつ前向きなメッセージをお聞かせください。

水口氏：オーバーツーリズム問題に関連して、最近「レスポンスブル・ツーリスト(責任ある旅行者)」というワードを聞くようになってきました。地域の本当の価値を理解し、自分の行動に責任を持って旅行に来てくださるお客様を根室・釧路地域では迎え入れたいですし、それをできるのがこの地域だと思っています。

加藤氏：この地域には、魅力あるAT素材がたくさん眠っています。それを皆さんで掘り起こし、ワクワク、ドキドキするようなAT素材を日本中、そして世界中へ発信していきたいと思っています。

安藤氏：道東地域の将来を見据えたとき、単なる旅行地ではなく、何かを学び、感じ取り、自分の人生を豊かにするステージとして、この自然豊かな根室・釧路地域を位置づけていけたらと思います。

鈴木氏：今日いただいた沢山の輝く玉のようなお言葉を心に留めて、これからも取り組みを進めていけたらと思います。

弊社は創立してから15年が経とうとしていますが、私は当初、観光の「か」の字も知りませんでした。今はコロナ禍で苦しい状況ですが、この先は多くのチャンスに恵まれると思われれます。なぜなら、コロナ禍が観光を一からつくり直すきっかけになるからです。ヨコの連携や地域コーディネーターの育成など、みんなで連携して取り組み、根室・釧路地域が世界に類のない、観光のディスティネーション(目的地)になっていくことを期待しています。

本稿は発言の要旨を一部まとめたものです。
全編は公式YouTubeにて公開中のアーカイブ映像をご覧ください。
(右 QR コードよりアクセス可能)



NoMaps 釧路・根室 2021

公式 HP は右の QR コードまたは下記 URL よりアクセスいただけます。
<https://nomaps-kushiro-nemuro.com>



根釧の経済概況（令和3年12月末基準）：根室管内

水産：根室管内の水揚げは数量・金額ともに前年比増加するも、主要魚種をはじめ依然として低調に推移。

①根室管内総水揚げ（各年1~12月）

根室市			根室管内3町		根室管内合計			
	数量(t)	金額(百万円)	数量(t)	金額(百万円)	数量(t)	前年比増減	金額(百万円)	前年比増減
R 3	53,805	19,656	70,830	18,889	124,085	+13.5%	38,545	+23.8%
R 2	52,410	17,529	57,362	13,592	109,772	▲18.3%	31,121	▲24.4%
R 1	67,967	21,118	66,313	20,067	134,280	▲11.1%	41,185	▲5.9%
H30	86,047	23,506	65,072	20,279	151,119	+21.7%	43,785	▲1.2%
H29	70,081	24,235	54,103	20,086	124,184	▲14.8%	44,321	▲15.1%

②秋サケ漁(根室管内・各年11月末)

	数量(t)	前年比増減	金額(百万円)	単価(円/kg)
R 3	5,482	+13.5%	4,999	912
R 2	4,827	▲41.4%	3,787	785
R 1	8,231	▲23.0%	4,911	597

サンマは平成以降最低の数量を記録したR2年より21.6%増加したものの、依然低調に推移。同様に秋サケ漁についても過去最低のR2年度比で13.5%増加したものの低調。羅臼イカ漁は前年比4.8倍の1,093tで、単価も上昇し金額は5.5倍の682百万円。

③サンマ漁(根室・各年12月末)

	数量(t)	前年比増減	金額(百万円)	単価(円/kg)
R 3	10,480	+21.6%	6,245	596
R 2	8,616	▲46.5%	5,119	594
R 1	16,106	▲61.2%	5,941	368

④イカ漁(羅臼・各年12月末)

	数量(t)	金額(百万円)	単価(円/kg)
R 3	1,093	682	624
R 2	223	122	547

酪農：根室、釧路ともに4~12月生乳生産量は、前年実績を上回る。

根室管内生乳生産量（各年4~12月）

年度別	数量 (t)	前年比
R 3	1,065,719	+3.6%
R 2	1,028,511	+1.5%
R 1	1,012,685	+1.9%
H30	993,818	+0.1%

地区別	数量 (t)	前年比
全道	3,102,409	+3.0%
十勝	994,397	+4.4%
北網	466,644	+3.2%
根室	653,669	+4.5%
釧路	412,050	+2.2%

○R3年根室管内月別伸び率(前年同月比・%)

7月 +3.9%	8月 +4.9%	9月 +5.0%
10月 +5.3%	11月 +6.7%	12月 +6.2%

生乳生産 (R3年4~12月) ※ 生乳生産量はホクレン調べ

- 根室管内の4~12月生乳生産量は1,065千tで前年同期比3.6%の増加。
- 年末年始の生乳廃棄発生を懸念した道内各地の農協が、駄牛淘汰等を後押しする独自対策を実施。根室管内の各農協でも、早期淘汰促進対策を実施した生産者に1頭単位で助成金を交付するなど、思いきった対策を講じている。

今後の需給動向等

- コロナ禍を背景とした生乳需給悪化により、年末年始には大量の生乳廃棄が危惧されたものの、道内における乳製品工場のフル稼働や消費拡大運動が実を結び、処理不可能乳の発生を回避。しかし、脱脂粉乳の在庫量は過去最高を更新。生乳生産は春に向けて徐々に伸びていくため、例年飲用不要期にあたる2~4月にかけてさらに余乳が膨らむ恐れもあり、引き続き注視していく必要がある。

家畜取引：根室市場は取引頭数が前年同期比3.4%増加。金額は同比0.8%増加。

□根室市場取引高（各年4~12月）

	取扱頭数(頭)	前年比	金額(百万円)	前年比	単価(千円)
R 3	34,886	+3.4%	8,437	+0.8%	241
R 2	33,714	+6.2%	8,365	▲9.7%	248
R 1	31,744	+10.4%	9,267	▲0.6%	292

□別海市場取引高（各年4~12月）

	取引頭数(頭)	金額(百万円)
R 3	7,076	1,235
R 2	7,133	1,134
前年比	▲0.8%	+8.9%

□種類別価格(根室市場)

	7月	8月	9月	10月	11月	12月
初生ホルスタイン牡 (単位：千円)	99.3	81.6	74.5	73.9	77.7	66.8
肉牛ホルスタイン経産牛 (単位：千円)	187.9	173.2	158.5	156.7	150.4	113.1

貿易：輸出前年同期比減少するも輸入は増加。

(R3年1~12月貿易実績・根室税関支署発表・)内前年同期比)

【総額】71億98百万円(+11.7%) 外国貿易船の入港隻数357隻(前年比▲20隻)

【輸出】84百万円(▲42.5%) 一般機械 24百万円(2.6倍)、輸送用機器 50百万円 (▲48.2%)

冷凍魚介類 全減

【輸入】71億13百万円(+12.9%) 生鮮魚介類 69億46百万円 (+16.0%) 冷凍魚介類 1億66百万円 (▲40.4%)

- ・輸出・・・輸送用機器が減少したため、全体として減少。
- ・輸入・・・生鮮魚介類が増加したため、全体として増加。

根釧の経済概況（令和3年12月末基準）：釧路地区

■釧路港の水揚は数量が前年比6.7%増加、金額7.7%増加。厚岸港の水揚は数量・金額ともに前年実績を下回る。

①釧路港総水揚高（各年1~12月）

	全体			
	数量(t)	前年比増減	金額(百万円)	前年比増減
R 3	204,499	+6.7%	8,860	+7.7%
R 2	191,635	+11.2%	8,227	▲1.2%
R 1	172,268	+41.3%	8,330	+1.1%
H30	121,878	▲12.7%	8,238	▲19.3%
H29	139,678	+22.3%	10,203	+1.0%

	（うち、スケソ）				単価(円/kg)
	数量(t)	前年比増減	金額(百万円)	前年比増減	
	44,724	+13.3%	1,959	+12.8%	44
	39,446	+27.3%	1,736	▲2.5%	44
	30,987	▲1.7%	1,780	▲11.9%	57
	31,514	▲23.3%	2,021	▲6.7%	64
	41,087	+4.1%	2,165	▲5.7%	53

②釧路港魚種・漁港別水揚（R3年1~12月）

主な魚種	数量(t)	前年比増減	金額(百万円)	前年比増減
サンマ	115	▲24.3%	55	▲13.5%
サケ・マス	48	+118.1%	27	+26.4%
スケソ	44,724	+13.3%	1,959	+12.8%
マダラ	6,009	▲4.6%	1,068	▲4.2%
イカ	41	▲91.8%	11	▲95.7%
カレイ類	323	▲18.8%	117	▲8.9%
イワシ	151,099	+6.4%	4,881	+17.1%
サバ	51	▲77.8%	5	▲86.9%
ホッケ	167	▲69.6%	35	▲46.0%

③厚岸港水揚高（各年1~12月）

	数量(t)	前年比増減	金額(百万円)	前年比増減
R 3	8,046	▲32.8%	3,208	▲10.0%
R 2	11,983	▲10.2%	3,567	+4.5%

④厚岸港魚種別水揚（R3年1~12月）

主な魚種	数量(t)	前年比増減	金額(百万円)	前年比増減
サンマ	1,349	▲52.2%	677	▲38.0%
秋サケ	0.2	▲66.1%	0	▲66.9%
あさり	1,367	+6.7%	813	+34.5%
かき	703	+11.8%	563	▲0.7%
つぶ	663	▲4.6%	203	▲18.6%

【釧路港水揚】

- ・R3年水揚数量は前年同期比6.7%増加、金額は7.7%増加。
- ・魚種別にみると、多くの魚種が前年比減となるが、イカ・サバ・ホッケが特に減少している。サケ・マスは前年同期比増加するも依然として低調。スケソは単価が低水準ではあるものの数量が前年比13.3%増加、金額は12.8%増加。

【厚岸港水揚】

- ・R3年水揚数量は前年同期比32.8%減少、金額は同10.0%減少。
- ・魚種別にみると、サンマと秋サケが数量、金額ともに前年同期比大幅減少、つぶは赤潮の影響もあってか、数量・金額ともに同減少。
- ・あさはり数量が前年同期比6.7%増加するも、単価が大幅上昇し金額は前年同期比34.5%増加。一方でかきは数量が前年同期比11.8%増加するも、単価下落に伴い金額は微減。

製紙：市内製紙工場のR3年4~12月生産量は、前年同期比2.1%減少。

※日本製紙釧路工場撤退に伴い、生産量の前年同期比のみのお知らせに変更しております。

観光：R3年4~12月スポット別の観光客入込数 ※peachは集計対象外

- ・R3年度（上期）の釧路市の観光入込客数は約138万4千人で前年比+7.5%。
- ・航空（道外）97千人（前年比+7.6%） 阿寒遊覧船35千人（同▲27.4%） 丹頂鶴自然公園（有料）15千人（同▲9.8%） 湿原展望台33千人（同▲15.9%） MOO 294千人（同▲17.1%）

貿易：輸出・輸入ともに前年同期比増加。

（R3年1~12月貿易実績・釧路税関支署発表・（ ）内前年同期比）

【総 額】 1068億82百万円（+28.3%） 釧路港外国貿易船入港数 411隻（▲7隻）

【輸 出】 138億99百万円（+20.7%）

・魚介類34億76百万円（+28.6%） 紙類・同製品22億62百万円（▲28.6%） 鉄鋼くず52億18百万円（+96.3%）

【輸 入】 929億83百万円（+29.5%）

・とうもろこし 284億20百万円（+61.1%）、肥料 130億31百万円（+4.1%）

・飼料 165億85百万円（+13.8%） 石炭 89億7百万円（+53.8%） 魚介類・同調整品62億68百万円（+30.4%）

全国・全道の経済概況（令和3年12月末基準）

住宅着工戸数

全国

■ R3年4~12月合計は654千戸で前年同期比5.4%増加。利用別では、持家・貸家・分譲は増加するも、給与が減少。

月別		
	着工戸数(戸)	前年比
R3年 12月	57,393	▲12.5%
R3年 11月	73,414	+3.6%
R3年 10月	78,004	+10.3%
R3年 9月	73,178	+4.2%
R3年 8月	74,303	+7.5%
R3年 7月	77,182	+9.8%
R3年4~12月計		
	654,485	+5.4%
内訳		
持家	+5.7%	貸家 +8.0%
給与	▲22.9%	分譲 +2.7%

■ R3年4~12月合計は、前年同期比4.7%減少。工事請負契約額は月別にみると8月以外全ての月で前年を下回る。

月別		
	工事請負契約額(億円)	前年比
R3年 12月	12,909	▲12.3%
R3年 11月	12,175	▲14.1%
R3年 10月	15,410	▲14.9%
R3年 9月	20,199	▲13.3%
R3年 8月	16,066	+1.2%
R3年 7月	19,057	▲12.6%
年別		
	工事請負契約額(億円)	前年比
R3年 4~12月	144,783	▲4.7%
R2年 4~12月	151,871	-

(※)R3.4の推計方法変更に伴いR2年度まで表示

公共工事請負高

企業倒産動向

■ R3年4~12月合計は、4,419件で前年同期比22.7%減少。負債額は8,542億円で同9.8%の増加。

年別推移		(金額単位：億円)		
(各年4~12月)	件数(件)	前年比	負債額	前年比
R3年	4,419	▲22.7%	8,542	+9.8%
R2年	5,718	▲10.5%	7,779	▲17.8%
R1年	6,389	+4.9%	9,459	▲13.0%
30年	6,092	▲3.5%	10,873	▲5.9%
29年	6,314	+4.0%	11,552	▲23.2%

観光客入込動向

■ R3年7~9月の延旅行者数は、前年同期比62.0%の減少。四半期別にみると、全期において前年同期比減少。

延旅行者数(千人)		
		前年同期比
R3年7~9月	21,458	▲62.0%
R3年4~6月	14,600	▲28.1%
R3年1~3月	13,018	▲75.4%
R2年10~12月	30,090	▲63.1%
年度別(前年同期比)		
R2年度	156,073	▲54.8%
R1年度	346,001	▲2.6%
30年度	355,402	▲6.7%

全道

■ R3年4~12月合計は27千戸で前年同期比4.2%増加。利用別では持家・給与・分譲が増加するも貸家は減少。

月別		
	着工戸数(戸)	前年比
R3年 12月	2,091	▲9.9%
R3年 11月	2,933	+8.9%
R3年 10月	3,043	+12.3%
R3年 9月	3,285	+19.3%
R3年 8月	2,996	▲20.2%
R3年 7月	2,890	+0.7%
R3年4~12月計		
	27,115	+4.2%
内訳		
持家	+10.3%	貸家 ▲2.7%
給与	+79.5%	分譲 +7.1%

■ R3年4~12月合計は、前年比4.7%減少。発注機関別では、地方公社が60.8%の大幅減少。

年別		
	前払保証請負額(百万円)	前年比
R3年4~12月	856,416	▲4.7%
R2年4~12月	898,792	+4.2%
R1年4~12月	862,155	+11.5%
H30年4~12月	772,914	▲3.1%
発注機関別(R3年4~12月)		
	前払保証請負額(百万円)	前年比
国	251,512	▲5.2%
道内市町村	250,295	▲3.4%
道	184,028	▲9.9%
独立行政法人等	95,923	+2.4%
地方公社	351	▲60.8%

■ R3年4~12月合計は、96件で前年同期比22.5%減少。負債額は114億円で同21.6%の減少。

年別推移		(金額単位：億円)		
(各年4~12月)	件数(件)	前年比	負債額	前年比
R3年	96	▲22.5%	114	▲21.6%
R2年	124	▲18.4%	146	▲38.4%
R1年	152	▲1.3%	237	+52.9%
30年	154	▲19.4%	155	▲74.6%
29年	191	▲1.5%	610	▲62.1%

■ R3年7~9月の延旅行者数は、前年同期比61.0%減少。四半期別にみると、全期において前年同期比減少。

延旅行者数(人)		
		前年同期比
R3年7~9月	1,476	▲61.0%
R3年4~6月	654	▲43.7%
R3年1~3月	735	▲54.8%
R2年10~12月	1,284	▲63.2%
年度別(前年同期比)		
R2年度	7,825	+47.1%
R1年度	14,807	+7.2%
30年度	13,811	▲16.4%

根釧の経済概況（令和3年12月末基準）

住宅着工戸数

公共工事請負高

企業倒産動向

観光客入込動向

根室

■ R3年4~12月合計は68戸で前年同期比21.4%増加。利用別では貸家が11戸減少、持ち家が16戸増加。

□根室市住宅着工戸数

		月別		
		戸数(戸)	前年比(戸)	前年比
R3年	4~12月	68	+12	+21.4%
R3年	12月	2	▲1	▲33.3%
R3年	11月	6	▲2	▲25.0%
R3年	10月	6	▲2	▲25.0%
R3年	9月	8	+5	+166.6%
R3年	8月	7	+4	+133.3%

		年別・利用別					前年比
		持家	貸家	給与	分譲	合計	
R3年	4~12月	50	11	7	0	68	+21.4%
R2年	4~12月	34	22	0	0	56	+1.8%
R1年	4~12月	35	10	0	0	45	▲18.2%

■ R3年4~12月合計は、前年同期比3.8%減少。工事種類別では、一般土木・舗装が前年同期比増加、建築・電気・管は同減少。

		年別	
		前払保証請負額(百万円)	前年比
R3年	4~12月	22,118	▲3.8%
R2年	4~12月	23,010	▲13.1%
R1年	4~12月	26,465	+28.7%
H30年	4~12月	20,558	+0.3%

		工事種類別 (R3年4~12月)	
		前払保証請負額(百万円)	前年比
	一般土木	13,840	+6.0%
	舗装	983	+5.5%
	建築	3,600	▲18.3%
	電気	1,174	▲5.4%
	管	452	▲25.7%

■ R3年4~12月の倒産件数は、市内0件、管内全体は1件。件数・負債額ともに管内は前年同期比減少。

		年別			
		【根室管内】		【うち根室市】	
各年(4~12月)	件数	負債額(百万円)	件数	負債額(百万円)	
R3年	1	13	0	0	
R2年	5	895	0	0	
R1年	1	98	0	0	
30年	4	166	1	42	
29年	7	2,864	1	312	

■ R3年7~9月の観光入込客数は、前年同期比17.2%減少。四半期別にみると、4~6月期はワクチン接種の加速や宿泊助成制度などの効果により前年同期比増加したものの、7~9月期は8・9月の緊急事態宣言の影響を受け減少。

		観光入込客数(千人)	前年同期比
R3年	7~9月	505	▲17.2%
R3年	4~6月	119	+64.2%
R3年	1~3月	121	▲24.1%
R2年	10~12月	257	+12.2%

		年度別 (前年同期比)	
R2年度		1,061	▲45.4%
R1年度		1,946	+12.0%
30年度		1,736	▲8.6%

釧路

■ R3年4~12月合計は536戸で前年同期比4.6%増加。利用別では、貸家、分譲が前年同期比減少、持家・給与は同増加。

□釧路市住宅着工戸数

		月別		
		戸数(戸)	前年比(戸)	前年比
R3年	4~12月	536	+24	+4.6%
R3年	12月	39	+7	+21.8%
R3年	11月	43	▲15	▲25.8%
R3年	10月	77	+46	+148.3%
R3年	9月	38	▲69	▲64.4%
R3年	8月	50	▲6	▲10.7%

		年別・利用別					前年比
		持家	貸家	給与	分譲	合計	
R3年	4~12月	299	192	7	38	536	+4.6%
R2年	4~12月	255	209	3	45	512	▲13.9%
R1年	4~12月	284	266	2	43	595	+9.6%

■ R3年4~12月合計は、前年同期比15.8%減少。工事種類別では、すべての工種において前年同期比減少。

		年別	
		前払保証請負額(百万円)	前年比
R3年	4~12月	39,111	▲15.8%
R2年	4~12月	46,455	+7.6%
R1年	4~12月	43,158	+11.4%
H30年	4~12月	38,754	+13.1%

		工事種類別 (R3年4~12月)	
		前払保証請負額(百万円)	前年比
	一般土木	23,102	▲7.6%
	舗装	1,236	▲25.0%
	建築	6,308	▲24.8%
	電気	2,126	▲7.8%
	管	983	▲53.7%

■ R3年4~12月の倒産件数は市内5件、管内全体では6件。負債額は管内で減少したものの、市内では増加。

		年別			
		【釧路管内】		【うち釧路市】	
各年(4~12月)	件数	負債額(百万円)	件数	負債額(百万円)	
R3年	6	530	5	443	
R2年	8	753	4	284	
R1年	8	1,004	4	330	
30年	8	495	7	482	
29年	14	1,738	12	1,616	

■ R3年7~9月の観光入込客数は、前年同期比13.7%減少。四半期別にみると、4~6月期はワクチン接種が進んだこともあり前年同期比増加したが、7~9月期は8・9月の緊急事態宣言の影響を受け減少。


		観光入込客数(千人)	前年同期比
R3年	7~9月	1,739	▲13.7%
R3年	4~6月	1,085	+67.8%
R3年	1~3月	668	▲43.0%
R2年	10~12月	1,192	▲25.1%

		年度別 (前年同期比)	
R2年度		4,307	▲47.2%
R1年度		8,165	+1.0%
30年度		8,085	▲0.1%



2022.04

MIRAI REPORT ISSUE.010

 **大地**みらい信用金庫 地域みらい創造センター